

07.大阪富国生命ビル



大阪富国生命ビルは、1964年竣工の旧富国生命ビルを耐震性の問題から建て替えたもので、低層部には商業施設や金融施設、学校施設が、上層階にはテナントオフィスが入る複合オフィスビルである。大阪市都市再生特別地区制度を活用し、隣接する地下街の防災性能の向上、隣接アーケードの補強と美装、産学連携施設（テラプロジェクト）、大学関連施設（京都造形芸術大学、立命館大学）の誘致や歩道状空地の整備など、社会に貢献できるビルをコンセプトとしている。外観のカーテンウォールのファサードは、環境に溶け込むよう均質なイメージから脱却を目指し、低層部よりランダムな多面体を配置している。俯瞰の視線の他、このおさめには近接し歩道を歩く人々の視線にも更に効果を及ぼすよう凸部の上裏の軒にはミラーが配置され、周囲の歩道との一体化を目指していた。

ビル外観やアトリウム「フコク生命（いのち）の森」等のデザインは、フランス国立図書館などを手掛けたドミニク・ペローがデザインした。共用のアプローチ・アトリウムに入るとフローアや壁はオフィスや複合ビルのエントランスには珍しくフローリング、またカーテンウォール越しのガラスのルーバーには森林を表すグリーンフィルムが合わせガラスに入っている。この構成は光と相まって空間を都市の中に豊かな自然を表現していた。

竹内 聡洋